

JOMA 通信

Japan Overseas Missions Association



海外宣教連絡協力会

広報 No.58号

Bridge Builder — 恵みの橋渡し —

JOMA 役員 横山基生 (OMF インターナショナル日本委員会)

英国ケンブリッジでの日本人伝道で祝された伝道方法は、日本食付聖書の学び会でした。毎週10名は下らない若者たち、特に日本では教会には来ようとは思わないであろう未信の日本人青年たちが、集まり聖書を開き、御言葉の深さを味わいました。チラシを作り、中年の私が熱心に配っても「日本食がただで食べられる、怪しい」と思われ、ほとんど応答はありません。それは、私と彼らの間に親しい関係(橋)が無いからです。既にこの日本食付聖書の学び会に来ていて、日本食が美味しいこと、聖書の学びも楽しいことを味わっている若者が、それぞれの語学学校の親しい関係(橋)のある同級生を誘うので、安心してやって来るという訳です。

日本で伝道が以前にも増して進まなくなってきた背景に、親しい関係(橋)を築き難くなってきた日本社会の現状があると思います。人と人との関係をあえて橋と呼ぶのは、人間関係を築く時の苦勞とその豊かさを、橋という概念にちょうど当てはめることが出来るからです。より堅固な広い橋を造るためには、時間がかかります。しかし橋ができることで、両方向に流れができ、両対岸が栄えます。霊の恵みもこの橋を通してキリスト者から未信者へ流れると思います。

この橋造りは、個人伝道だけでなく宣教の様々な場面でも重要であることを、昨今強く思わされています。海外で信者・求道者となった人たちのフォローアップの課題が叫ばれて久しい中、このフォローアップの働きの鍵は、帰国者一人一人と地元のクリスチャンとの間に豊かな橋ができていくかどうかです。帰国者一人一人の魂の状況、その生活環境や海外での生活のこを受けとめつつ、その人の友となる人が起こされなければなりません。弟子訓練のレベルでは、表面的な訓練以上にメン

トーと呼べる親しい関係(橋)がある時にこそ、豊かな訓練と成長が与えられると言えます。ある地域の諸教会の祝福を考える時、近隣の諸教会に豊かな橋が架けられているかどうか、大きな祝福の鍵となるでしょう。さらに大きく国内宣教や世界宣教の祝福も、各教派・教団・伝道宣教団体間にどのような橋ができていくかにかかっていると思います。



橋は自然にはできません。その橋を架けよう、今ある橋をさらに太く豊かにしようとする人がいて初めて事が進みます。忙しい日本社会の忙しい教会に生きる忙しい牧師・信徒にとって、時間を割いて関係作りをすることは大きなチャレンジかと思えます。しかし、それぞれが、内向き(一個人のクリスチャン生活内、一教会内、一教派・教団・団体)になってしまう時、主の祝福は限られてしまうことを覚えます。

JOMAの働きは、世界宣教に関わる諸団体が協力して日本発信の宣教活動をさらに活発にするためです。その趣旨はとても良いものですが、実際的にはどうでしょうか。多くの団体が、所属している意義をそれほど感じていないのが現状のようです。実際に各団体間の関係(橋)を豊かにしようとする人(Bridge Builder)がいないからではないでしょうか。JOMAに役員会はありますが、限界があります。年一回の総会時での交わりではなかなか橋は豊かになりません。各団体の担当者もよく変わります。このような中であって重荷をもって積極的にBridge Builderの活動をする人材が与えられることが各団体に求められていると思います。

(4ページに続く)

世界の地域特集 2 東ヨーロッパ

「東ヨーロッパ宣教事情」

石川 秀和 (近江聖書教会牧師
元アンデオケ宣教会宣教師)

1989年11月にベルリンの壁が崩壊した後、雪崩のように共産主義諸国は体制を崩壊しました。隣国北朝鮮のこともベールにかかり一般人には何がおきているのか分からないように、旧ソビエトや東欧のことは日本から見て暗黒のよう見えない国でした。ある方から、共産国崩壊後、援助が必要とは聞いていたものの、何が大変で、何を助ければよいのか皆目分からない状況でした。ですから福音の伝わった国に何故行くのかと時々いわれたものです。ソビエトでは70年、東欧では40年共産主義の下におかれた国々が霊的パンを求めて飢餓状態であったことを日本の多くの教会は知らずに過ごしておりました。手を伸ばせば聖書をもらえる、足を運べば教会へいける、インターネットを開けるとそこに福音が語られている状況とは全く別の世界です。いち早くその状況を把握した国々は緊急の体制で物理的に資金的に、人材的に支援を開始したわけです。しかし同時に異端も我先にやってきました。日本からも統一教会が大量の人材を送ったのです。働きは多岐に及びます。政府が崩壊した後の老人の福祉や年金の問題、

墮胎を禁じ多産の家庭の教育や医療はどうするのか、食べ物をどう確保するのか、西側に比べて質が悪い職場は破産し、失業した人を誰が助けるのか。同時に地下にもぐっていた教会を西側の枠の中で考えるのではなく、40年神がないと言われてきたこれらの国でどう理解し、適切な支援をするのか膨大な問題がそこにありました。欧米からは財の豊かにあるクリスチャンの団体から、カメラマンとスタッフが送られ1週間滞在し、カメラに収め、裕福な西側の人々に貧乏人は振り回され、同労する働く地域の僕は大きな痛みを持ちました。やがて林の中にあった神学校から卒業した主の僕たちは、多くの人々が豊かな欧米に流れる中、あえてもっと霊的に貧しい中央アジアの特にイスラムの色濃い地域やロシアという何でも飲み込んでしまう大きな地域に人々を送り始めているのです。

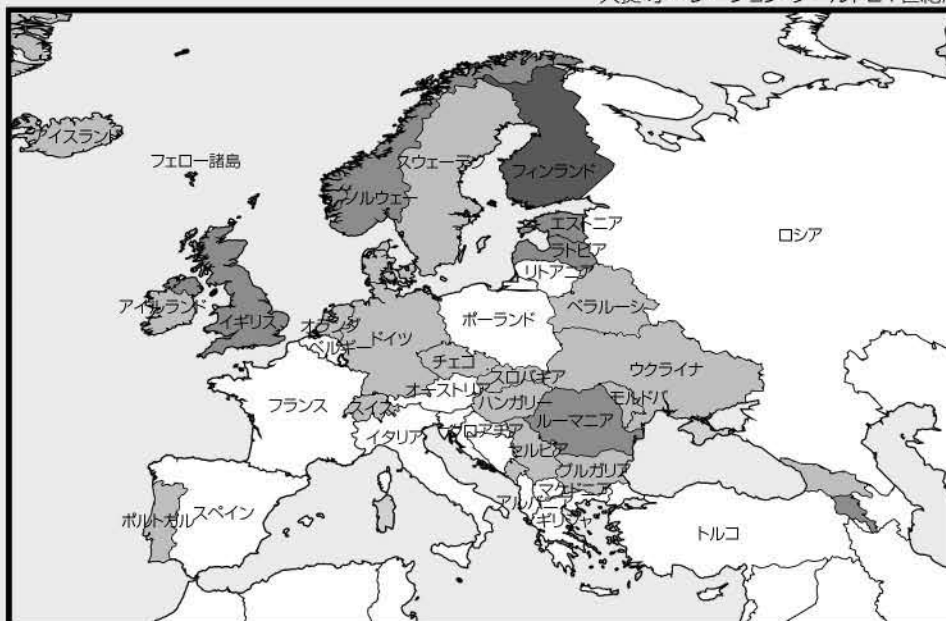
「東欧宣教のうらおもて」

川井 勝太郎 (ルーマニア在住 16年目)

共産圏と言うくびきから開放されて早くも17年、東欧の国々は新しい時代を迎えようとしています。90年代の初めには、民主化体制確立の為に急激な変化を強いられた激動の時代の真っ只中であって、福音主義の教会に聖書の語る

ヨーロッパにおける福音的クリスチャンの人口割合

典拠:オペレーション・ワールド'21世紀版 49ページの統計



救いを求めて人々が押し寄せたリバイバルの時期もありました。共産党に迫害されても信仰を捨てなかったクリスチャンたちの姿を見ていた人々が、こぞって本物の神の言葉と救いを求めて教会にやって来たのです。神はいないと主張していた共産党に圧迫されていた民衆が神はいるのだと信じて求め、多くの受洗者が起こされました。しかし、そのような宣教の好機もつかの間、2000年以降、西側の資本社会が色濃く浸透して来た頃から、教会の成長にも陰りが見え始めました。

私の住んでいるルーマニアは東欧の中でも経済的に出遅れた方の国だと言われて来ましたが、今年の1月、隣国ブルガリアと共にヨーロッパ共同体に加盟しました。今までは東欧それぞれの国で独自の政策に民主化を対応させようとしていたのですけれど、2000年以降、ヨーロッパ共同体に加盟する事こそ究極的な民主化であるといった観念が強くなり、画一化されたヨーロッパの思想に東欧も影響されて来ました。しかし、その反面、ルーマニアでは教会の内から新しい若い世代の信仰者たちの声が少しずつ世論を動かそうとしています。出稼ぎなどで故郷を離れ異国で苦勞する若者たちが離散されたその土地

で数々の大きな教会を形成しているのです。また、歴史的な背景から、国境の向こう側に取り残されてしまった人達（たとえばセルビアのハンガリー人やウクライナのルーマニア人など）の間では、本国の人達に比べて聖書信仰を持つ人の割合が高いと言う統計も出ています。西欧の方でキリスト教の伝道や宣教活動に対する規制などが起こり始めている中で、東欧の声として、若い世代のキリスト者たちが起こされている事を主に感謝すると共に、今後の東欧宣教の成り行きを左右するヨーロッパ共同体の東欧に対する位置づけなどにも注目しながら、開かれている宣教の門が今も私達の前にあることを御旨と捉えて、東欧宣教の働きを日本からもお祈り頂けると幸いです。

JOMA通信では特集を組み、世界各地における宣教の状況と必要を順次お伝えしています。第一回目は西ヨーロッパでした。次回は北アフリカ・中東地域を予定しています。事務局から原稿依頼をさせていただき、各加盟団体からの記事を募集しております。北アフリカ・中東地域における宣教情報をお持ちでしたら、ぜひ事務局までお寄せ下さい。



加盟団体の声

新コーナーの登場です！近況、アピールなど150字以内で何でもお寄せ下さい。原稿締め切りは毎回事務局よりメールでお知らせします。

アンテオケ宣教会

主のご熱心とお導きで、まる三十年の歩みを守られてまいりました。今、五大陸に十九組の宣教師方を派遣するようになりました。

三十年の記念の時に、世界福音同盟の宣教委員会のもとで、世界宣教ネットワークの奉仕をされていた松崎ひかり宣教師が帰国しました。日本をベースに、専務主事／宣教師としての立場で、日本での世界宣教情報・協力醸成ネットワークに奉仕することになりました。これから、六名主事体制（国内）で、一人でも多くの宣教師を送り出す使命に忠実に仕え、多くの諸団体とも協力を深めさせていただきたいと願っております。

インマヌエル総合伝道団 世界宣教局

当団体では、派遣されている宣教師によって、ボリビア、台湾、ケニア、フィリピンでの宣教活動

を継続します。帰国中の宣教師たちも国内での巡回報告を終えて、宣教地に再び再赴任します。フィリピンでの宣教留学を終える豊田常喜師が、宣教師として働きを開始します。8月にボリビアに宣教奉仕団を派遣すべく、準備がなされています。

エターナル・ラブ・イスラエル

エターナルは、ユダヤ人伝道の団体です。エルサレムのクライストチャーチに宮本純子宣教師を派遣しています。また、1993年からストリート・ショップの露店商や留学生、ビジネスマンなどのあらゆる在日ユダヤ人にヘブライ語のトラクトや聖書小冊子などで直接、福音をお伝えしています。どうか覚えてお祈りください。

チャーチ・オブ・ゴッド国外宣教部

メキシコで阿部師、ジーン師によって始められたチャーチスクールの働きは昨年から日本のチャー

チスクールを支援するという形で拡大を見ています。自教会の成長のみでなく主がお入用ならどこへでもとの姿勢が今年も豊かな実を結ぶようお願いしつつ、国内にあってはより若い層に海外宣教のヴィジョン継承を目指しています。

南米宣教会

現在、4組の宣教師がブラジルで労しています。南米宣教会を設立するきっかけにもなった、中田智之宣教師は昨年65歳の定年を迎えましたが、現地教会の希望により働きを続けています。佐藤浩之宣教師は2つの教会を助けながら2008年に日本人移民100年を迎えるその記録作りを手伝っています。三浦春寿宣教師はマナウスで教会の牧会と現地の小中学生の学校の運営責任を持っています。塚田献宣教師は3年目を迎え、任地が移動になりました。それぞれの働きが守られ、導かれますようにお祈りいただければ、幸いです。

OMF インターナショナル日本委員会

8月24～27日にAFMC (Asian Frontier Mission Conference) が東南アジアで開かれます。宣教師としては入れない国々に専門職の立場で入り、キリストの証人としてどう人々に仕えていくか。メールや文書でうかがい知れない、既にこの働きに従事している人達の経験談も多く聞ける。OMF事務局にお問い合わせを。

OM日本

ドゥロス号が7年ぶりに日本に寄港します。今回は日本海側を福岡(博多港5/12-21)、金沢(金沢港5/25-6/4)、新潟(山ノ下埠頭6/7-18)と寄港。毎日一般公開していますので、ぜひ訪ねてみてください。情報は日本寄港特別サイト(www.doulos.mydns.jp)でチェックできます。

JOMA総会

開催のお知らせ

- 日時：2007年4月17日(火)
午前11時より午後3時半まで
- 会場：お茶の水OCCビル
901号室
- 連絡先：JOMA事務局
担当：坂庭裕子姉
- プログラム：
午前：「現代宣教における多様性の現状と課題」
午後：総会議事

(1ページから続く)

超教派間の橋渡しの際に問題になるのが、神学的立場の違いです。カリスマ系と福音派の溝が未だにあるようです。枝葉的な部分の違いを見るのではなく、同じ福音の根幹の部分を見て協力できる広い心が必要です。自分の教会・教団・団体の利益につながるかどうか以上に、主の栄光が現されるかどうか注目して、教職・信徒が様々な垣根を自由に越えて、恵みの橋渡しをするムーブメントが日本のキリスト教会に必要であると強く示されています。

JOMA世界宣教地図

先日お会いしたある教会の先生から、この宣教地図を使って世界各地の宣教師のため毎日順番に数名ずつお祈りして下さっていると聞き、大変励まされました。今年度版の在庫がまだ事務局に多くあります。A3サイズ、カレンダー付き。送料実費負担で何部でもお分けしています。世界宣教週間や祈祷日などの機会に教会の皆さんに配られてはいかがでしょうか？お求めはJOMA事務局までご連絡下さい。



発行：海外宣教連絡協力会
発行者：池原三善
住所：〒244-0842
横浜市栄区飯島町2441-10
Tel.045-891-7769
Fax.045-894-2121
e-mail: jomaoffice@yahoo.co.jp
ホームページ: www.joma.mydns.jp
郵便振替：海外宣教連絡協力会
00160-7-106631